

「脚下照顧」

『安全とニシキノアキラの関係』

先日、現場から帰ってきて道具の片付けをしていた時、山下さんと大森さんに足場を棚にのせてもらいたいとお願いしたところ、2人とも快く引き受けてくれてすぐに対応してくれたのですが、2人で長い足場をタイミングを合わせて棚の上に乗せる時にふと、大森さんが手を止めて、「山下さん、手を切るといかに軍手してきて！その間僕が足場支えとるで！」といいました。自分も近くで見ていて山下さんが軍手をしていないことを知っていたのに『すぐに終わる作業の流れの中で、まあいいか心理』が働いてしまって黙認してしまっていたところでの一言だったので“はっと”しました。そしてテクアでは大森さんのような、相手を気遣う気持ちの温かさが、実はたくさんの事故を未然に防いでいるのではないかと感じました。大森さんグレート！！うちのメンバーグレート！感謝です。

ぜんぜん話は変わりますが、先日、夜中にポーとTVを見ていたら、今、小学生にまで人気があるケツメイシのミュージックビデオをやっていて、「君にBUMP」という曲だったのですが、完全に1970年代の映画「サタデーナイトフィーバー」のパロディーになっていて、ジョン・トラボルタの代わりに羽賀研二が踊っていて、久しぶりにTV画面で見た羽賀研二はまさにはまり役で、これを演出したケツメイシというバンドはすごいなあと一人真夜中にカンドーしていました。自分は人気が下降してしまった芸能人がリバイバルしてくるのを見るのがとても好きで、だれがどういう経緯でその人を起用してその人の何がお茶の間に受けて人気再浮上したのかを考えるのが好きです。

以前、にしきのあきらが『スターにしきの』として再びTVのゴールデンタイムに登場するようになった時、あれはトンネルズの木梨憲武が、にしきのあきらがもっている『いつまでも過去の栄光をひきずって、売れなくなっても絶対下手に出ない私の強さ、あるいはわがままさ』を本来、普通の人であれば毛嫌いするところを『スター』の一言でコミカルに表現し救ったところに、おもしろさと木梨憲武の秀逸さがあると思います。突き詰めて考えると要するに木梨憲武の人柄がとても『温かい』ということになると思います。

今一番関心があるのは、『俺はBIG！！』と発言して芸能界から干されてしまった田原俊彦を、いつ誰がどんな形で復活させてくれるかです。ワインと同じでもっと寝かさないと苦味が味わいに変わらないかも知れませんが(笑)。

イエローハット相談役の鍵山秀三郎先生のおっしゃる言葉に『心温かきは万能なり』という言葉がありますが、芸能界でも企業でも目に見えないところでその存続を支えているのが『心の温かさ』なのではないかと感じています。

感謝。【羽原篤史】

